



あげない 飼わない 逃がさない それ、A・KA・N！ 日本列島、密かに進行する移入ジカ問題

文と写真 永田純子 junbe@affrc.go.jp
森林総合研究所野生動物研究領域 鳥獣生態研究室

「シカ 20 頭逃げ出す 7 日の大雨で土砂崩れ」
——愛媛県松山市鹿島公園、愛媛新聞オンライン
2023

「シカ 1 頭行方不明 扉の鍵あけられたか」
——千葉県香取市香取神宮鹿園、千葉日報 2023

今年度に入り、シカ逸出に関するニュースが立て続けに報道されました。その後の報道を見る限り、積極的な捕獲を試みているとは思えず、逃亡したシカは 1 頭も捕獲されないまま野放しの様です。

また、四国のとある市立公園ではシカ飼育継続が困難になったため、現在、無償での譲渡が進められています（伊予市 2023）。飼育動物の最後を見届ける覚悟と責任は、どこにあるのでしょうか。

不適切な飼育状況下でのシカ類の脱柵や放逐、飼育シカの譲渡や売買は相当数あるようです。報道されているだけマシなのかもしれませんが、後述するように、遺伝学的情報から密かに移入ジカ問題が進行している状況も明らかになってきました。

シカ類の飼育について

飼育されているシカ類は、大きく外来ジカと国内外来ニホンジカの二つに分けられます。外来シカはその名の通り外国産のシカ類を指します。特に、シカ亜科（Cervinae）のシカ類（例：アカシカ、大陸生息のニホンジカ、キョンなど）は特定外来生物に指定されており、飼育、売買、譲渡、移動には厳格なルールが定められています。国内外来

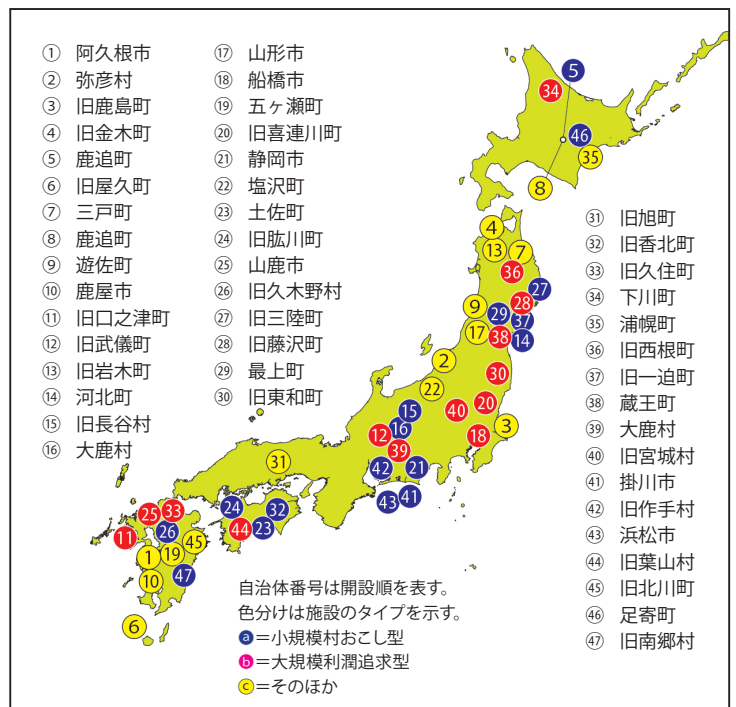


図1 1990年代前半時点の日本の養鹿場の分布
浦山（1996）掲載の図をもとに作成。

ニホンジカは、日本各地で飼育されたり、人為的に運ばれたりした在来ニホンジカです。飼育に届け出は必要なのものの、飼育や売買などにはそれほど厳格な規制は設けられていません。

日本では、1980～90年代には地域振興などを目的に飼育（養鹿）が推進されていました。1996年時点では養鹿場は全国に47か所存在し、国産・中国産ニホンジカ、アカシカなどの外来シカ類など約4000頭が飼育されていました（浦山 1996、図1）。その後バブル経済の破綻やBSE問題などにより多くの養鹿場が経営難に陥り、頻繁な人為的移動、飼育施設からの逃走や放獣が繰り返されてきたようです。動物園、サファリパーク、神社などでも多くのシカ類が飼育されています（次ページの図2）。飼育されているシカの由来が不明だったり、飼育の過程で種・亜種間

CONTENTS

- p1 永田純子「日本列島、密かに進行する移入ジカ問題」
- p3 松浦友紀子「暮らしに身近なエゾシカとのおつきあい」
- p4 まんが「しっかり！シカくん」by ヒロヨン
- p5 伊吾田宏正「エゾシカ管理のグランドデザイン5年間の評価」
- p6 渡邊拓真「えぞしかるた販売始めました！」
／「DCCシカ捕獲認証レベル1を開催」
- p7 伊藤英人「ワナ猟の世界」^②
- p8 青山則靖「料理の理」^⑬

の交雑が起こったりしている施設もあります。

ニホンジカやアカシカが属する *Cervus* 属は、種間・亜種間の交雑が容易に起こることが知られています。飼育シカが何らかの要因で野外に定着した場合、野生の在来ニホンジカと交配する可能性があります。厄介なことの一つに、繰り返される交配により中間的な形態が生じ、数世代前に起こった交雑を形態から判断することが困難になる、ということが挙げられます。そのため人知れず野外で交雑が進んでいる可能性があるのです。

シカの移入 何が問題か？

外来シカ、もしくは国内外来ニホンジカが飼育施設などから逃げ出すなどして、野外に定着している地域は複数あります。

シカの移入による問題は、主に以下の7つが考えられます。①遺伝子汚染による在来ニホンジカの地域固有性消失、②自然植生の衰退・生物多様性消失・土砂流出、③新たな農林業被害、④狩猟者不足により、根絶・被害軽減が困難、⑤市街地への出没や交通事故増加、⑥マダニ増加により人獣共通感染症発生の恐れ、⑦観光業への影響。これまでシカが生息していなかった地域にシカが導入された場合は、本来経験する必要のない、②～⑦のような困難を抱えることになります。以下、特に問題が深刻だと思われる地域について現状を紹介します。

和歌山^{ともがしま}県友ヶ島

もともとニホンジカは生息していなかった和歌山県の離島、友ヶ島（沖ノ島）に1955年に観光振興目的で、台湾からタイワンジカ（ニホンジカの台湾産亜種）が10頭持ち込まれました（Takatsuki 1985）。Matsumoto et al. (2015)による遺伝学的調査によって、これらのシカは純粋なタイワンジカではなく、サンバーやアカシカなどと交配された雑種であることが明らかとなりました。近年では本州本土側の大阪府岬町で在来のニホンジカと友ヶ島由来の外来シカの交雑個体が確認され、野生在来ニホンジカの遺伝子汚染が証明されました（Takagi et al. 2020）。本州本土側での遺伝子汚染進行が懸念されています。

富山県

県外から持ち込まれたとみられる屋久島産ニホンジカ（ヤクシカ）が野生化し、在来のニホンジカと交雑しています（Eva and Yamazaki 2018）。富山県内の個体のおよそ40%が、ヤクシカ由来と推定されるミトコンドリアDNAのハプロタイプを持っており（Yamazaki 2018）、遺伝子汚染によって野生在来ニホンジカの地域固有性が消失する恐れが高まっています。



図2 神社で飼育されているニホンジカ

伊豆諸島^{にいじま}新島

新島にはもともとニホンジカは生息していませんでした。伊豆諸島地内島に導入されたニホンジカが泳いで渡ってきたと考えられています。1970年代後半ごろから農作物被害が発生しています。1993年以降、シカ対策が続けられていますが、状況の改善には至っていません（長谷川 他 1996）。シカの個体数増加に伴って、シカが市街地へ出没したり、マダニが増加したりし、観光業へ大きな影響が出ています。

鹿児島^{きかいしま}県喜界島

喜界島にはもともとニホンジカは生息していませんでした。2002年に鹿児島県金峰町（現南さつま市）の養鹿業者が廃業する際、喜界島の住民が15頭ほど購入しました。飼育開始後、早い段階で逃げたとのこと。2016年からシカを目撃や農作物被害が報告されはじめ、2018年度の推定個体数は115頭に上っています。遺伝学的分析により馬毛島^{まげしま}産ニホンジカであることが判明し（永田 他 2022）、譲渡もしくは売買が複数回行なわれたことが明らかになりました。喜界島にはもともと大型哺乳類が生息していなかったため、大型哺乳類の捕獲を担う狩猟者がほとんどいませんでした。現在、根絶を目指し新規捕獲従事者を増員しているものの、捕獲技術が未熟なこともあり、根絶や農作物被害軽減には至っていません。

シカによる令和3年度の農作物被害額は61億円。林業被害面積は約3500ha。もはや国家的問題です。今後さらに、不適切な飼育によって外来ジカの逃亡や放獣が起こった場合、シカ被害の新たな火種を増やすことになるかもしれません。それを考えると、心配で夜も眠れません。

私から皆さんへのテイクホームメッセージは「A・KA・N！」です。これ以上シカ問題を拡大させないために「A：あげない KA：飼わない N：逃がさない」をお願いしたいと思います。



暮らしに身近な エゾシカとのつきあい

たきかわ環境フォーラム主催
「エコカフェ」での講演から

松浦友紀子 koyummt@gmail.com

一般社団法人エゾシカ協会専務理事／森林総合研究所北海道支所

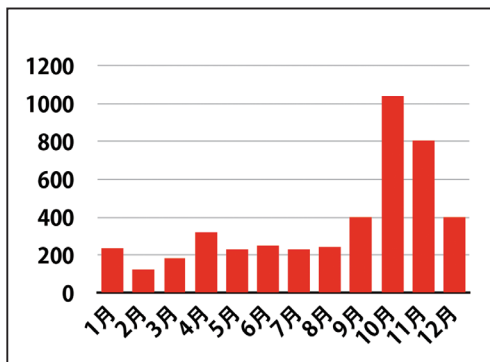
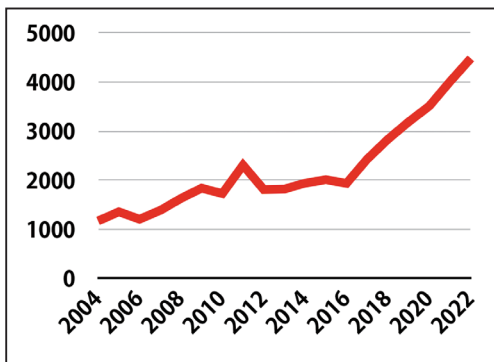
みなさん、どういう場面でシカのことを「身近だなあ」とお感じになるのでしょうか？ 最近ではニュースで野生のシカを見ることが増えてきたんじゃないかな、と思います。普通に暮らしていてもシカに出くわす機会が増えているかもしれません。シカ肉を食べる機会も増えていると思います。シカをクルマで轢きそうになった、ぶつかってしまった、という人も少なくないでしょう。このようないろんな「おつきあい」がある中で、あつれきをともなう「おつきあい」は少ない方がよいわけです。このことを念頭におきながら、もう少し詳しくお話したいと思います。

シカが道路に出てくる理由

2008年から2022年にかけて、エゾシカが関係する自動

車事故件数は増加の一途をたどっています（北海道警察公表）。2022年は全道合わせて4480件ものシカ事故が起きていて（**グラフ1**）、死亡事故も発生しています。交通事故を防ぐには、シカにいくら「ここは危険だよ」と教えても伝わりませんから、われわれが気をつけるしかありません。

10月から12月にかけて、事故件数はぐぐっと増えます（**グラフ2**）。その理由はシカの側にあります。この時期はシカの交尾期にあたります。雄はこの季節、ゴハンも摂らなくなるくらい一所懸命に、発情した雌を探し回るし、見つけた雌を守るために雄同士の闘いに明け暮れます。文字通り、周りが見えなくなるくらい、必死になります。すごく活発に行動するようになり、活動域が広がります。市街地にやってくることも増えるし、交通事故にも遭いやすくなるわけです。



グラフ1 エゾシカが関係する自動車事故件数の推移 (2004~2022年) 出典 北海道警察「エゾシカが関係する交通事故の発生状況(令和4年中)」

グラフ2 エゾシカが関係する自動車事故件数の推移 (月別、2022年) 出典 同左

道路上のシカとクルマが衝突しやすい原因はまだあります。シカって、ひびめがツルツル滑っちゃうせいで、アスファルトの路面をうまく歩けません。クルマが近づいてきたからといって、パッと逃げるのができない。また、シカは複数頭で群れをつくって行動することが多い動物です。先頭の個体はわりと左右を警戒しているようなのですが、二番目以降のシカたちは、すぐ前のシカの後ろ

p1-2「日本列島、密かに進行する移入シカ問題」記事の参考文献一覧

千葉日報 2023/5/23【速報】香取神宮のシカ1頭行方不明 扉の鍵開けられたか 飼育団体、情報求める <https://www.chibanippo.co.jp/news/national/1062197>
 愛媛新聞 2023/5/15 松山・鹿島公園のシカ20頭逃げ出す 7日の大雨で土砂崩れ <https://www.ehime-np.co.jp/article/news202305150176>
 Eva, S. N., & Yamazaki, Y. (2018). Hybridization between native and introduced individuals of sika deer in the central part of Toyama Prefecture. *Mammal study*, 43(4), 269-274. <https://doi.org/10.3106/ms2018-0006>
 長谷川雅美・浅田正彦・黒住耐二・関 啓一・黒野博之・矢野 聡美・谷口薫美. 1996. 伊豆諸島、新島及び神津島における食物連鎖構造の解明と移入動物の影響. 第5期プロ・ナトゥーラ・ファンド助成成果報告書, pp. 45-55.
 伊予市 2023/6/16 鹿の譲渡先を募集します. <https://www.city.iyo.lg.jp/keizaikoyou/shikajiyouto.html>
 Matsumoto, Y., Ju, Y. T., Yamashiro, T., & Yamashiro, A. (2015). Evidence of pre-introduction hybridization of Formosan sika deer (*Cervus nippon taiouanus*) on Okinoshima, Wakayama Prefecture, Japan, based on mitochondrial and nuclear DNA sequences. *Conservation Genetics*, 16, 497-502. <https://doi.org/10.1007/s10592-014-0675-z>

永田純子, 亘悠哉, 高木俊人, 立澤史郎, & 兼子伸吾. (2022). 喜界島に定着した国内外来ニホンジカの起源推定. *哺乳類科学*, 63(1), 109-117. <https://doi.org/10.11238/mammaliancience.63.109>
 西之表市. 1972. 西之表市政の窓 (1972年9月号 No. 120), pp. 621.
 Takagi, T., Matsumoto, Y., Koda, R., & Tamate, H. B. (2020). Bi-directional movement of deer between Tomogashima islands and the western part of the Kii Peninsula, Japan, with special reference to hybridization between the Japanese sika deer (*Cervus nippon centralis*) and the introduced exotic deer. *Mammal Study*, 45(2), 133-141. <https://doi.org/10.3106/ms2019-0048>
 Takatsuki, S. (1985). Ecological studies on effect of sika deer (*Cervus nippon*) on vegetation vi. Tomogashima island, Wakayama prefecture. *Ecological review*, 20(4), 291-300.
 浦山佳恵. (1996). 養鹿からみた日本人とシカ (特集 鹿と日本人). *地理*, 41(10), 56-60.
 Yamazaki, Y. (2018). Genetic population structure of sika deer, *Cervus nippon*, derived from multiple origins, around Toyama Prefecture of Japan. *Zoological science*, 35(3), 215-221. <https://doi.org/10.2108/zs170187>

について動いてしまいがちです。2～3頭目のシカが、クルマにぶつかりがちなようです。こうしたシカの特徴を頭に入れて運転すると、事故を減らせるかもしれません。

市街地への出没

市街地に出てくるシカには、主に2つのタイプがありそうです。ひとつは、突発的に出没するタイプ。もうひとつは、つねに市街地にいるタイプ。圧倒的に多いのは「突発的の出没型」で、ふだんは市街地の近くの森林内に生活しているのが、何かのきっかけで市街地に出てきてしまう。交尾期の雄ジカや、母親から離れて別の土地に分散していく時期の1歳の雄などが、うっかり市街地に入り込んでしまう、というケースです。

いっぽう「常態的生息型」は、市街地を自分の行動圏の一部として利用している個体です。たとえば稚内市のシカがその例で、シカたちは市街地を「安全な場所」と認識して、平時の行動圏にしています。

市街地に出没したシカに対して人間側はどうすべきか？シカも、市街地に出たくて出てくるわけではありません。若いオスが、川を伝って移動しているうちにうっかり街中に出てしまった、というケースが大半です。大勢の人間が取り囲んだり追い詰めようとする、シカはますます興奮して、激しく逃げ回ったりして、かえって交通事故や人身事故につながりかねません。「ただ静かに見守る」というのが適切な対応なのです。

シカの密度を下げる

交通事故にせよ、市街地出没にせよ、根本的な対策は、シカの数減らすことに尽きます。米国では、シカの生息密度を下げたところ、交通事故件数が減った例が報告されています。北海道でいま、私たちの社会が許容できないほどのあつれきが生じているのだとすれば、それはやはり「シカの数が多すぎるせい」ということになると思います。

現在の北海道では、シカの数が増えることは、ほとんど期待できません。だから狩猟者が頑張っています。じっくりですが、狩猟者一人あたり1年に19頭程度のエゾシカを捕獲している計算になります。世界的に見ても、北海道の狩猟者はすごく優秀だと思います。ただ、このように頑張っても、いまシカは減らず、むしろ増えています。おまけに、今後もしシカの数減らせたとしても、それでゴールイン、というわけではありません。

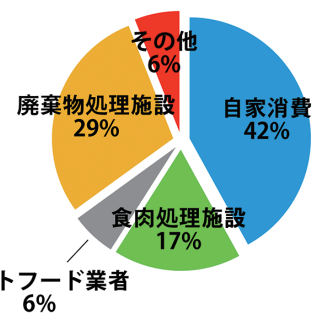
というのは、シカは、生息数が増えると繁殖力をアップさせる動物だからです。洞爺湖中島の事例からわかったことですが、シカの数が増えすぎると、ある段階で繁殖力が低下し、増え方が鈍ります。ところが、人間が介入してシカを間引きしたところ、シカたちの繁殖力はまたすぐに回復しました。

つまり、頑張って捕獲してシカの数減らせたとしても、油断は全くできません。その後も毎年捕り続けないと、すぐ数が増えてしまうでしょう。つねに人が手をかけ続けなければならない相手、これからも本当に長く「おつきあい」の続く相手だ、という認識が必要だと思います。

シカ肉利用率は約2割

発想を転換すれば、持続的に捕れるからこそ、私たちが末永く受け取れる恩恵もある、と思います。一番の恩恵は、シカのお肉をずっといただける、ということです。

他の都府県に比べて、北海道はシカ肉をすごくよく利用している地域ですが、内実をみると、全捕獲数に占める食肉利用率（食肉処理施設を通して流通している肉）は約2割で、「まだまだ」と感じます（グラフ3）。シカの捕獲は、「狩猟」と「許可捕獲」に分類できます。このうち許可捕獲の個体は、半分以上が廃棄されているようです。許可捕獲は、捕獲するだけで1頭あたり一定の報償金がもらえる制度なので、従事者にとっては、手間をかけて食肉化（流通・販売）する動機付けが弱い。これも活用が進まない一因かもしれません。



ペットフード業者 6%

グラフ3 2017～18年度、全道のハンター2890人からのアンケート回答にもとづく。許可捕獲4万6453頭、狩猟2万7493頭が対象。出典 北海道生物多様性保全課資料「エゾシカの有効活用の現状」（2019年5月）

相手を良く知ることから始めよう

どんな対策も、まずは相手のことを良く知らないことには始まらないと思います。シカのことをもっと知って、単なる害獣ではない、ごく身近な動物だというふうに認識してもらえたらと願っています。

2023年8月26日、「滝川市まちづくりセンター」での講演から。全文を主催団体のウェブサイトで見ることができます。http://ecoup.la.coocan.jp





エゾシカ管理のグランドデザイン 5年間の評価

伊吾田宏正 igoth@rakuno.ac.jp

一般社団法人エゾシカ協会副会長／酪農学園大学狩猟管理学研究室

北海道は今年8月、「エゾシカの個体数指数が全道的に増加している」と公表しました。今やエゾシカは観測史上最多となった可能性があります。現在は第6期エゾシカ管理計画に基づいて、全道を4つの地域に区分して、それぞれ個体数指数をモニタリングしながら、個体数管理を行なっていますが、それぞれ増加～再々増加、目標水準の2～3倍という厳しい状況です(表)。最も早く個体数管理を始めた東部地域では4半世紀の間、一度も目標水準まで減少させることができていません。指数に基づく「個体数」は、2022年10月時点で4つの地域を合計すると56万～125万頭と推定され、中央値で言うと、全道に90.5万頭いた！ということになります。

表. 地域別の個体数指数の傾向と最新値、目標水準(個体数指数は、2011年を指数100とした各地毎の相対値。地域別の比較はできない。つまり南部が最多なわけではない。)

地域	傾向	最新値(2022年)	目標水準
東部	再々増加	指数137	指数50以下
北部	再増加	指数121	指数50以下
中部	再増加	指数107	指数50以下
南部	一貫して増加	指数353	とにかく減少

さて、5年前の2018年7月にエゾシカ協会は「エゾシカ管理のグランドデザイン(協会ウェブサイトで閲覧可)」を作成し、北海道知事に対して、道固有の自然資源であるエゾシカを持続的に管理していくための提言を行ないました。エゾシカ管理計画では明確にされていない、個体数を目標レベルまで減少させた後の持続的資源利用のフェイズを見据えた、むこう20年間の青写真を示すものでした。今年の総会セミナーでもお話ししましたが、本稿でも、それぞれの項目について5年間の目標をおさらいし、その達成状況を評価したいと思います。

「認証肉の定着」:達成率22%

北海道は2015年にエゾシカ協会の認証制度を引き継ぐ形で、エゾシカ肉処理施設認証制度を創設しました。2022年度、道内にエゾシカを食肉処理している施設は90(農水省調べ)ありましたが、そのうち道のエゾシカ肉処理施設認証を取得している施設は20しかありません。エゾシ

カを食肉処理する施設は全て同認証を取得して、協力して他地域のシカ肉との差別化を図るべきだと思いますが、前述のように取得率は22%(ただし、頭数ベースの検討も必要)、さらに、他に認証を更新しなかった施設がこれまで3ありますので、認証自体に十分なメリットが確保されていない可能性があります。

「農林業被害の実態把握」

グランドデザインでは、具体的な目標値の設定をしていませんでしたが、全道的に見ると再々増加中です。2021年度は44.8億円に上りました。傾向としては、前述の個体数指数と同様で、東部で再々増加、北部と中部で再増加、南部で一貫して増加、となっています。被害調査方法が各地でバラバラになっている可能性があるため、その確立と統一も課題となっています。

「捕獲の担い手の実態把握」

こちらにも具体的な目標値の設定をしていませんでしたが、70年代には約2万人いた道内狩猟者は、2009年までに約7400人まで減少した後、2021年度には約8400人に増加しています。また、2006～2021年度にかけて、銃猟免許を持っている人の割合が97%から79%にやや減少しているのに対して、わな猟免許を持っている人の割合が15%から57%に3倍近くになっています。手っ取り早いわなを使用する狩猟者の存在で、狩猟者が再増加している可能性があります。

「肉検査・タグ制度の導入」:進展なし

グランドデザインでは、欧米の制度を参考にして、有資格者による獣肉検査、およびトレーサビリティ確保のためのタグ制度の導入を義務付けると提案していましたが、5年間で進展はありませんでした。現時点では、各処理場の自主的な「異常の確認」ととどまっているため、当協会のシカ捕獲認証(DCC)を活用した肉検査・タグ制度をエゾシカ対策推進条例に盛り込むようにするなど、働きかけていく必要があります。

次ページへ続く

「英国ハンティングスクールへの道」はお休みです。

「DCC1取得者200名・DCC2取得者20名」： 達成率88%・15%

現時点でDCC1の取得者は176名で、達成率は88%とまずまずの実績と言えますが、DCC2は3名で、達成率は15%と芳しくありません。改善のためには、前項の「肉検査・タグ制度の導入」との連携が一つ重要と考えられます。現行の第6期エゾシカ管理計画から、DCCの活用を明記して頂いていますが、今後は数値目標の明記などが課題となると考えています。ちなみに、DCCのお手本DSCが運用されている英国では、獣肉検査者にはDSC2の所得が義務付けられています。

「個体数3割減」：達成率マイナス135%？

グランドデザインではそのロードマップの中で、個体数管理の5年目の目標を30%減少させるとしていました。最新の個体数指数とそれに基づく推定個体数のそれぞれ中央値を用いて計算すると、全道の個体数は2018年度から2022年度にかけて、64.4万頭から90.5万頭に増加しています。5年間の目標30%減少、すなわち目標個体数45.1

万頭に対して、結果は90.5万頭でした。達成率を計算してみると、マイナス135%*となります。

*鳥獣被害特措法に基づく鳥獣被害防止計画の評価方法を参考とした。

「流通個体数1.5万頭」： 3年目の達成率225%

2021年度のエゾシカ食肉処理頭数は33,778頭で、全国(99,033頭)の34%を占めていました(農水省調べ)。グランドデザインの5年間の目標は3年目にして2倍以上達成したことになります。しかし、同年度の全捕獲数(143,193頭)に占める割合は23.6%に止まっています。10年目の最終目標としては、全捕獲数の60%を食肉利用し、40%は自家消費するというようになっていっていますので、更なる有効活用の推進が必要です。

以上、グランドデザイン5年目の検証をしましたが、有効活用については一定の評価ができるものの、個体数管理や新体制の構築については、まだまだ課題が多いということです。引き続き、関係機関の連携による検討が重要と思います。

えぞしかるた販売始めました!

子どもから大人まで、楽しく遊びながらエゾシカの生態や歴史を学び、正しくシカと付き合っていくこと——をコンセプトに、昨年3月から制作に取りかかり、2年がかりで完成しました。「あ」から「わ」まで44枚のカードは、句もイラストもすべてオリジナル。裏面には、よりマニアックな「エゾシカ・クイズ」も入れました。1問解くたびに「シカ知識」が増えていく仕掛けです。「えぞしかるた」は当協会ホームページから購入いただけます。みなさまのご購入を心よりお待ちしております。(渡邊拓真)



カルタ販売QRコード



DCCシカ捕獲認証レベル1を開催



今年度で9年目となるシカ捕獲認証レベル1(DCC1)。6月と7月の2回に分けて開講し、北海道内外から計12名の方が受講されました。第1回開催(2015年)からの受講生は延べ207名、DCC1取得者は計176名となりました。今年度はカリキュラムの中に意見交換の時間を新しく設け、各地から集まった多様な業種の受講生同士、シカ管理にまつわる地域特有の課題や悩みなどを発表し合いました。他地域の状況を認識する良い機会になりました。(渡邊拓真)

ワナ猟の世界

連載第28回
我流槍術
伊藤英人

有限会社 渡部製作所

<https://watabeshiki-wana.com>
ito@watabeshiki-wana.com



写真2

ワナにかかった獣は元気なので、狩猟槍で動きを止める。槍は距離をとった安全な攻撃が可能で、止めさしや血抜きに便利な武器である。今回は、我流だが安全で効果的な使用法を記す。

狩猟槍の形態と種類

金属部分を身み（または穂ほ）、木の棒を柄えという。身の後端が空洞であり、必要ときに柄を差して槍とする。刺すときに力を入れるには、身の先端が柄の軸の延長線上にあるのが望ましい。

刺すためには刃渡りはなくていい（針に刃渡りはない）。ただし、深く刺す、または刺した後に切るために刃がついている。刃渡り 15cm 以上の槍を許可なく所持することは銃刀法で禁止されている。

柄は現地調達できなくはないが、私は農具用のカシの柄の先を削って持参している。すべての槍には目釘穴があり、ネジで固定しないと抜けてしまう。

縄文時代風の、刺突に特化したもの（写真1上）（ここではツクヤリと呼ぶ）だけでなく、身の部分だけでもナイフとして使えるもの（キルヤリ）が市販されている。ツクヤリは肉厚で左右対称。キルヤリはマタギの西根正剛作



写真1

フクロナガサ（同中）と、コールドスチール社製ブッシュマンが有名である（同下）。

持ち方と構え

右利きなら槍を体の右側に置く（写真2）。左手を前にして柄をつかみ、右手は柄の後端を手のひらに当てる。膝を曲げ、足の位置を動かさず、左手で方向を決め、力を入れるときは右手で後端を押し込む。両手とも柄を握る形では、力が入らないし、刺しすぎてしまった場合に獲物に近づいてしまって危ない。

使い方

私はイノシシや小型哺乳類に対しては頸動脈を狙う。シカは頸動脈が浅いので刺すだけでなく薙ぐ攻撃も有効とみられる。クマは強いが複数人で囲めば勝てるかもしれない。

ツクヤリもキルヤリも、第一撃は急所に向かって刺す。そのあと、血を抜くために傷口を広げたい。ツクヤリは二撃目に軸を 90 度回転させて同じ場所を刺す。キルヤリは、急所の少し上を刺した後、左手に体重を寄せ、下方向に切る。

軟らかい金属を使っている場合、刺した後すぐ抜かないと、テコの原理で身が曲がってしまう。体内にとどめる時間を短くするため、獲物が元気なうちはヒットアンドアウェイで何度も攻める。

刺しすぎない

刺しすぎて貫通すると、間合いが近くなりすぎて危ない。槍はヤブなどの狭い場所や接近戦に非常に弱い。咬みつかれないよう接近戦を避け、足をしっかり固定し、槍だけ前方に動かす。

青山則靖 料理の理 15

エゾシカチャップ

ロース肉で作るエゾシカチャップです。ロース肉は、ステーキやローストなどメインディッシュになる高価な部位。調理自体は「切って・焼く」とシンプルなので、ロース肉のステーキでシカ肉料理に初挑戦、という人も多いでしょう。でも火入れが意外に難しく、上手く焼けずに「シカ肉は硬い」という残念な印象を与えてしまいがちな部位でもあります。下ごしらえに一手間かけて焼き上がりをやわらかく、ご飯もお酒も進む味付けにアレンジしたのがこの一品です。ポイントは

- ・お肉の筋を切ること
- ・焼く前にお肉に小麦粉をまぶすこと

これで火入れもあまり神経質にならなくても美味しくなります。

まずは筋切り。今回は脂付きのロースを使いましたが、脂と肉の間にある筋を確実に切ることが大切。ここが切れていないと加熱時に筋が収縮して肉が反り返ってしまいます。また噛みきれなくて食感が悪くなります。

続いて、お肉の両面に小麦粉をまぶしてしっかり払います。小麦粉をまぶすと焼いた時に肉が縮みにくく、ソースの絡みもよくなります。

鍋は予熱しない「コールド・スタート」で。フライパンにバターとロース肉を入れてから火をつけます。片面を中火で焼いて、肉汁が浮いてきたら裏返します。ここで薄切りにした玉ねぎときのこを投入し、野菜がしんなりしたら調味料を加えます。ケチャップ▶中濃ソース▶トマトジュース、と濃度が濃い順番に入れていきましょう。

仕上げに赤ワインを注いで一煮立ちさせると、さらに美味しくなります。



材料と分量 (2人分)

エゾシカロースステーキ用	2枚
玉ねぎ	1/4個
きのこ	お好みのもの 100g
バター	10g
トマトケチャップ	大さじ2
中濃ソース	大さじ1
トマトジュース	大さじ3
塩・こしょう	適量
小麦粉	適量



1)

エゾシカロース肉の筋を切り、塩・こしょうをします。



2)

小麦粉を全体的にまぶし、



3)

フライパンにバターとともに入れ、火をつけます。



4)

肉汁が浮いてきたら裏返し、薄切りにした玉ねぎ、ほぐしたきのこを入れて炒めます。



5)

玉ねぎが透き通ってきたら調味料を入れて全体的に絡んだら完成です。

Kitchen Support 青 supportao.exblog.jp

青ちゃんのエゾシカ料理講座

ロースステーキ編 / 絶品ロースト編 / 青椒肉絲編 / 万能水煮編 / 万能水煮和風アレンジ編 / 洋風アレンジ・スープカレー編 / トマト煮編 / ピラフ編

YouTube



「料理の理」バックナンバー

<http://yezodeer.org/library/library.html>

一般社団法人エゾシカ協会 ニュースレター第55号

発行日 2023年10月15日
編集発行 一般社団法人エゾシカ協会
会長 鈴木正嗣
事務局長 松浦友紀子
〒069-0864
北海道江別市大麻泉町1-19
電話 011-375-7899
MAIL info@yezodeer.org
URL http://yezodeer.org

© 2023 Yezo Deer Association, All rights reserved.